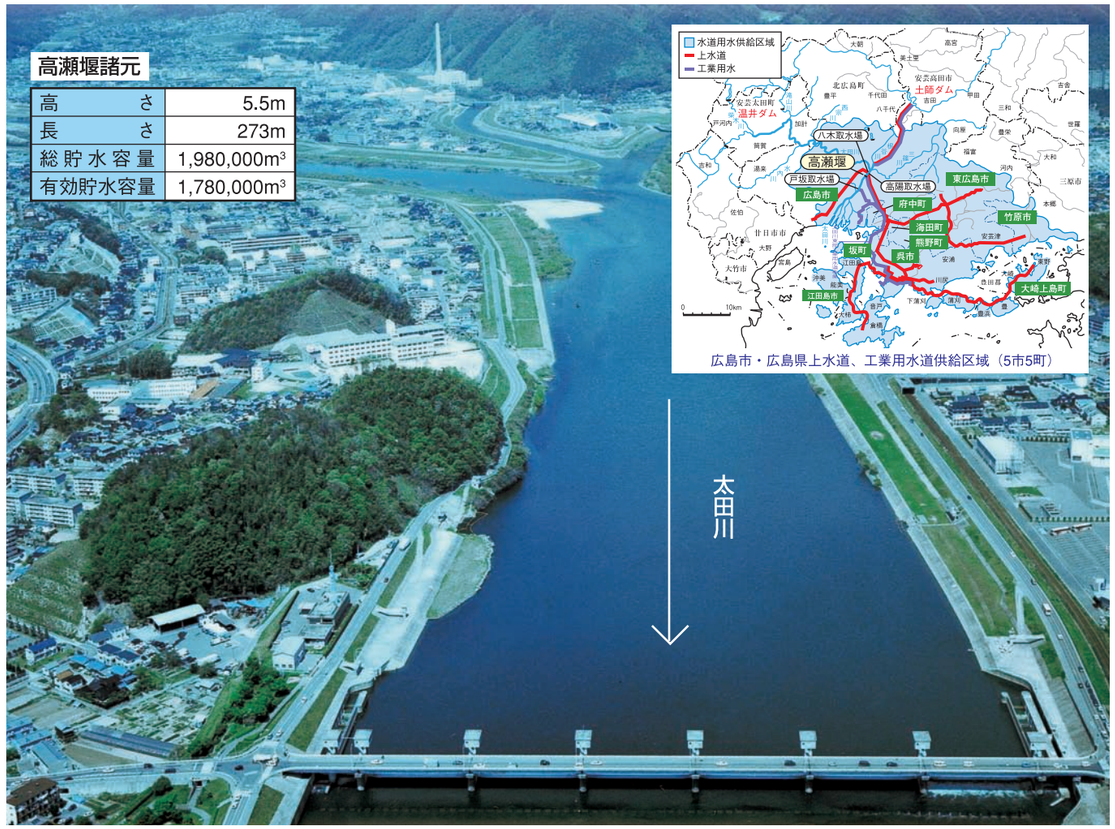
高瀬堰と中市堰

高瀬堰

高瀬堰は、太田川の河口から約17kmに位置し、昭和50年に建設されました。高瀬堰は、太田川中流部右岸一帯のかんがい用水の取水施設として設置されていた高瀬井堰（固定堰）を改築して可動堰とすることで治水効果を発揮するとともに、太田川および土師ダム（江の川）からの分水、温井ダムからの供給により堰で貯めた水を、日量60万m³の水道用水・工業用水として広島市、呉市など5市5町に暮らす約160万人の県民や企業に供給しています。また、高瀬堰は、魚道や舟通しを設置して、従前の河川機能を確保しています。



高瀬堰諸元

高　さ	5.5m
長　さ	273m
総貯水容量	1,980,000m³
有効貯水容量	1,780,000m³

広島市・広島県上水道、工業用水道供給区域（5市5町）

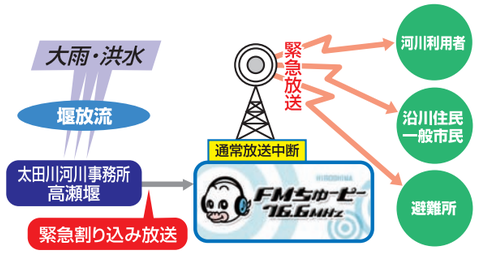
アユの降下対策

高瀬堰上流で産卵されたアユの仔魚が、堰が降下阻害となって海まで到達できていないとの指摘があったことから、平成16年度に基礎調査を実施し、平成17・18年度には、広島大学・広島県立水産海洋技術センター・太田川漁協・太田川河川事務所で「高瀬堰アユ仔魚降下調査研究ワーキング」を設置して共同研究し、アユ仔魚の降下に有益な放流方式を選定しました。この放流方式は、平成19年10月から実施しています。

（仔魚（しぎょ）：卵からふ化したばかりの幼生魚。アユの場合、体長5mm程度で遊泳力はなく川の流れに漂うように流下します。ふ化したのち4～5日程度で海に到達しなければ死んでしまうと考えられています。）

高瀬堰アユ仔魚降下調査研究ワーキング

高瀬堰の放流情報はコミュニティFMで！



■受信エリア＝広島市中区、東区、西区、南区、安佐南区など

高瀬堰からゲート放流を行うときは、放流警報設備を利用した警報を行っていますが、その範囲は河川およびその周辺に限られています。より多くの人々に放流状況を知らせるため「コミュニティFM」を利用した情報提供も行っています。

■受信エリア

災害時の広島市への警報所の開放

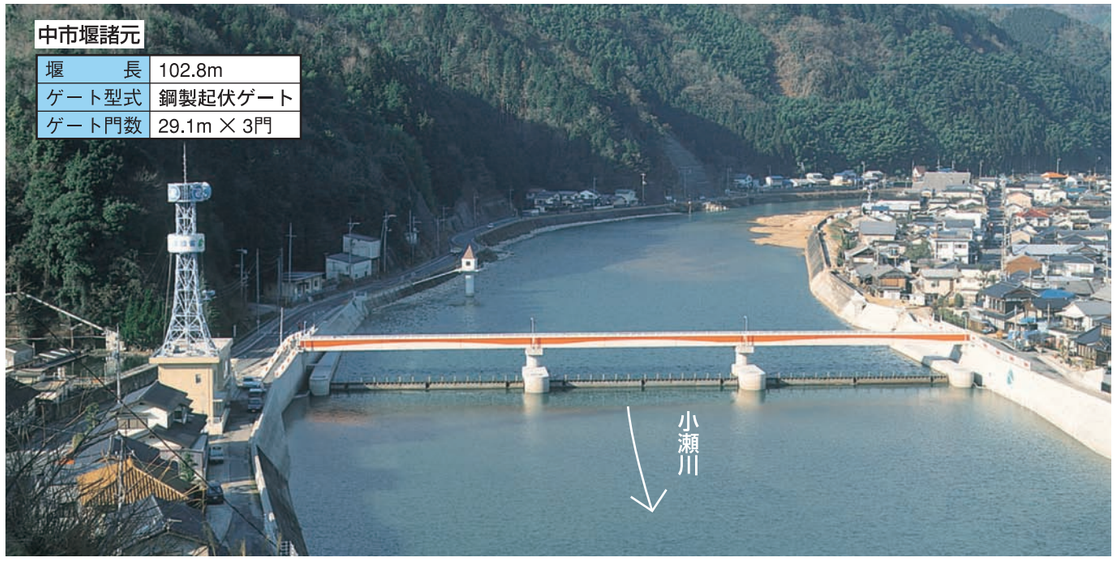
放流警報用設備は、ダム・堰等の放流開始や河川水位の上昇を河川利用者等に周知するための設備ですが、災害時に、高瀬堰、祇園水門、大芝水門の放流警報用スピーカーおよびサイレンと情報表示板を広島市に開放し、市が発表する避難勧告等の災害情報を住民に届きやすくしています。

祇園水門　祇園情報局　スピーカーおよび情報表示板（広島市西区大芝地先）

高瀬堰　中調子警報所および情報表示板
（広島市安佐南区東野地先）

中市堰

中市堰は、小瀬川の河口から約2.5kmに位置し、平成5年度に完成しました。旧中市堰は、大竹市内および和木町内一帯のかんがい用水の取水施設として設置された可動堰でしたが、老朽化によりゲートが動かなくなったことや堰敷高が高く洪水を安全に流せないため、可動堰に改築し治水安全度の向上を図りました。
また、堰は、感潮区域にあり、堰の上流から取水している工業用水に塩水の影響がない機能と、農業用水の取水位の確保する機能を持っています。



中市堰諸元

堰　長	102.8m
ゲート型式	鋼製起伏ゲート
ゲート門数	29.1m × 3門